

サステナブル経営は企業価値をどう変えるのか ～第三者評価が映し出す本当の価値～

企業経営において「サステナブル経営」は、もはや社会貢献の延長線ではない。今では、企業価値や資本コストにまで影響する“経営インフラ”として扱われている。気候変動対策、人的資本への投資、資源循環、ガバナンス改革などは、取引先や投資家が企業の信頼性を判断する基準にもなりつつある。とくに近年、欧州の大手機関投資家が企業との対話の際に「サステナビリティ情報の非開示」を明確なリスクと位置付ける例が増えており、単に“取り組んでいるか”ではなく、“将来の企業価値を押し上げる仕組みになっているか”が問われている。

その判断材料として注目が高まっているのが、CDP、MSCI、FTSE Russellといった第三者評価である。例えばMSCIは、同じ業種内での相对比较を行うため、企業規模に左右されにくい構造になっている。また、CDPは気候変動リスクを「企業の信用力を左右する要因」として金融機関に提示しており、実際に欧州では気候変動の評価が高い企業ほど、銀行借入の金利が平均で0.2～0.5%ほど低くなるとの分析も

報告されている。こうした経済的インパクトの存在が、第三者評価を単なる“スコア”ではなく、資金調達や株式市場に影響する要素として押し上げている。

具体例を見ると、トヨタ自動車がCDPで最高評価を獲得しているほか、積水ハウスや花王も環境分野や人的資本で高い評価を得ている。ただし、これらの評価が直接株価を押し上げたわけではない。一方で、MSCIやFTSEの指数に組み入れられた企業の中には、組み入れ後に海外投資家の保有比率が上昇したケースも複数確認されており、評価が“資金の流れ”を左右しう



点は見過ごせない。

多くの分析現場で強調されているのは、「スコアそのもの」より「なぜその評価になったのか」を読む姿勢だ。評価項目や配点は機関ごとに大きく異なり、ある企業がA評価とBB評価を同時に受けることも珍しくない。また、研究開発への投資が将来の排出削減や人材育成につながると評価される企業がある一方、優れた技術を持ちながら情報開示の不足で評価が伸びない企業も存在する。近年では、開示の巧拙が評価を左右すぎる“情報開示バイアス”も指摘されており、評価の読み解きには慎重さが求められる。

サステナブル経営は、今や企業のイメージ形成ではなく、長期的な収益力や競争力を測る指標として市場から扱われている。だからこそ私たちは、評価結果という「点」ととらわれるのではなく、その背後にある技術、経営、事業戦略という「線」を読み解く必要がある。変化の激しい時代において、企業の真価を見極めるうえで、この“線を見る姿勢”こそが重要になっていないのだろうか。



測ってみよう! 探検隊 Vol.94

高濃度 GABA トマトで睡眠の質は変わる？ 15 日間の連続測定で検証！

「チョコや飲料、生鮮野菜まで、機能性表示食品として大人気の「GABA（ギャバ）」入り製品をよくみかけるようになりました。GABAは「ストレス緩和」「睡眠の質向上」「高めの血圧低下」「デスクワークの疲労感軽減」などの効果があるとされます。実際、どの程度『睡眠』に効果があるのか？という疑問から、15日間実食してウェアラブルデバイスで睡眠効果を測ってみました。

【前半 5 日間：普段通り／後半 10 日間：毎日高濃度 GABA 入りトマト 5 粒を摂取（参加者 4 名）】

被験者	判定	変化率（※主要データ）	実測データから見た傾向
Aさん	深い睡眠 ↑↑	深い睡眠 +8.0%	スコアは横ばいも、「深い睡眠割合」が増加して質がアップ。
Bさん	大幅向上！	スコア +13.3%・深い睡眠 +34.3%	スコア・深い睡眠・目覚め体感のすべてで顕著な改善を観測！
Cさん	高水準維持 →	深い睡眠 +3.8%	もともと睡眠の質が非常に高く、高い状態を安定キープ。
Dさん	変化なし →	スコア +2.5%	数値・体感ともに前後では変化が見られず（個人差あり）。

※ウェアラブルデバイス（Apple Watch 等）ごとの測定基準の違いを考慮し、個人の基準データからの「変化率（%）」および「変化の傾向」で総合評価しています。

今回の結果から、GABAトマトは「全体のスコアを一気に上げる」というより「深い睡眠の割合を押し上げ、睡眠の質を下支えする」傾向が見られました（※個人差あり）。気になる健康習慣や話題の食品があれば、皆さんもまずは「測ってみる」ことから始めてみませんか？

ココに 現場とデスクをつなぐ！ 技あり! デジタルサイネージで社内情報共有

「デジタルサイネージ」というと難しそうですが、これは街中でもよく見かける「電子看板」のことです。当社は分析業のため、現場や機材庫を行き来する社員も多く、常時PCメールを確認できない環境から社内一斉放送に頼りがちで苦慮していました。そこで各拠点や分析棟にデジタルサイネージを設置。当日の欠席者や会議室の利用予定、通行止め連絡から「かわせみ通信」の発行まで、「急ぎではないけれど知ってほしい情報」をスムーズに共有できるようになりました。長らく放置されていた落とし物を写真付きで投稿したところ、即日回収されたという嬉しい事例も！ 印刷や貼り替えの手間も省けるデジタルサイネージ。これからは様々な場面で活用できそうです。



社員プチコラム

市田 明（代表取締役）

近年、海藻や魚介類の減少、磯焼けなど海の世界環境変化が大きな課題となっています。縁あってグループ会社でスジアオノリの陸上養殖に携わり、水温や光などの条件を変えながら、生育に適した環境を探る日々です。少しの違いで成長が変わる奥深さに、自然の面白さを実感しています。次に挑戦したいのは、磯焼け対策として駆除されたウニを畜養し、商品価値を高める取り組みです。一見価値がないと思われるものにも、新たな可能性を見いだせることに魅力を感じています。環境保全と地域産業の活性化につながる事業として、これからも新しい挑戦を続けていきたいと思っています。



編集後記

熊本の地震や千葉の台風被害など、落ち着かないニュースが続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は夏季休暇中、インターハイや甲子園で高校生たちの熱戦を応援してきました。猛暑の中、全力で競技に向き合う清々しい青春の姿に、たくさんの感動をもらいました。残暑厳しき折、皆様も体調には十分お気をつけください。（みっちー）

